

## 教師の基本姿勢

## 最大の教育環境は教師自身である

☆教師に望まれる子どもへの5つの関わり(子どもファースト)

- ①信じぬく ……どうせできないや子どもが悪いなどきめつけない。
- ②ありのまま受け入れる ……思い込みのフィルターをかけない。(偏見)
- ③励まし続ける ……できていることを伝え続ける。
- ④どこまでも支える ……子どもがあきらめても、教師があきらめない。
- ⑤心をつなぐ……信頼できる関係づくりをする。



☆教師自身がお手本となるために(子どもに言う前に教師ができていなくてはいけない)

- ①子どもや同僚に失礼のないように(言葉使い、態度など)
- ②お互いが気持ちよく働けるために、働き方の多様性を尊重しながら、協力体制をもって働く。
- ③健康に留意する、学ぶ姿勢をもつ、主体的に動く(自ら求める)

☆学ぶ目的:幸せになるために、自分の可能性を狭めることがないように

身につけた学びを基に創造性を生かして新しいものを作り出す。

知恵を発達させ、人格を高め、より豊かで幸福で価値ある人生を送るために

まずは、教師自身がしあわせになる→他の人を尊重する→あたたかい社会環境の醸成

## I 学校教育目標

— 心 — ちゃんと勉強しよう 自分のために ～一人ひとりが福田小のほこり～

## II. 学校経営理念

児童も教師も「ルールとマナー」「思いやり」を軸に学校生活を送り、社会性を身につけていく。そのことを土台として、学校に係る全員が楽しく、安心・安全で多様な学びを展開できる学校をめざしたい。

## III. 重点目標

・「学ぶことが楽しい」と思える ・「自分は必要とされている」と思える ・「学校は楽しい」と思える

## I 学力向上…「学ぶことが楽しい」と思える

## ・基礎基本の定着

学習規律を整え、学ぶ姿勢を身に付けることを土台として、各教科における基礎基本を繰り返し学習などにより定着させる。

## ・学習の面白さ調査

各教科の面白さとは何かを児童と教師にアンケート調査をして、教える側と教わる側の意識に乖離

がないように学習指導を進める。

#### ・自学学習の推奨

より広い知識の獲得のために、自分の興味関心に合わせた学習を進んで行えるようにする。ただ、学校でしっかりと勉強をして、家では、好きな音楽を聴いたり、本を読んだり、スポーツをしたり、あるいは、ぼんやりと思索する時間も必要。兼ね合いが難しいですが、学校図書館やICT機器を活用しながら学習を展開する。

#### ・学校図書館教育の充実

読書により幅広い知識の獲得を目指すのみならず、創造性や豊かな情操の育成も行なう

#### ・考え表現する授業づくり

校内研究を中心に常日頃から、考えをもち、それを発信し、他の考えを受け入れながら、自己の考えをブラッシュアップさせるような授業を目指す。

#### ・個別指導・放課後寺子屋やまととの連携→学力向上

わかった嬉しい→やればできるという自己肯定感の獲得

#### ・放課後寺子屋との連携→担任と寺子屋コーディネーターの情報共有をし、学級経営に生かす

## II 自尊感情の育成・・・「自分は必要とされている」と思える

#### ・体験学習の充実

本物を見る機会を多く設けることで、感動から多くのものを学び取る。

#### ・自分の役割を自覚し、責任感をもたせる

学校行事・クラブ活動・委員会活動のなかで、役割をもたせ、責任をもって取り組ませることで、学級や学校での自分の位置を認識させ、自己有用感を強める。

#### ・人間関係づくりの充実

異学年交流や福田教室児童、地域の人との交流を通して、他者意識をもたせ、お互いを認め合い、あたたかい雰囲気の醸成を図る。他者に対する偏見をもたせない。

## III 居場所のある学校・学級・・・「学校は楽しい」と思える

#### ・基本的な生活習慣の確立

保護者と連携しながら、「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする生活に必要な習慣の定着を図る。

#### ・支援教育の充実

福田教室の児童と交流級の児童のかかわりを密にさせ、福田教室の児童にとっては社会的自立を。交流級児童にとっては、偏見や差別なく思いやりをもって接することができるように、学級という小さな社会でお互いにとって実のある活動になるように学級担任が率先して取り組んでいく。

#### ・サポート体制

不登校支援を中心になって推進する中核教諭を配置(担任・SA 級外等の連携プレー)は、教室に居場所をつくる努力をする。ブルームを必要な時には、不登校傾向の児童の居場所とし、学習を保障する中核教諭が担任、学年と保健室、他機関等の連絡調整を行う。

## IV 学校経営に関する考え方(補足)

### ①部会

・各部会が重点目標を意識した取り組みを進める

・総括教諭が常に部内全体の進捗状況を把握し、連絡調整を図りながら部の運営を進める。

・担当(権限と責任)→部で検討(権限と責任)→職員会議

## ②学年・学級

- ・各学年、各学級が重点目標を意識した取り組みを進める
- ・学年代表が中心となり、指導についての共通理解を図る。統一感をもった指導を心がけ、人が変わっても同じ指導ができるように。
- ・学級通信は各責任でスピーディーに発行(権限と責任)
- ・クラスレク(創造⇔権限と責任)
- ・見守りの心

大切なことは、「トラブルをどう学びに変えるか」子どもたちは元来、自分たちで問題を解決する力を宿している。

## ③相談体制の確認

- ・学級担任対応で不安な場合は、学年間で相談、判断し、対応する。(管理職には経過を報告しておく)ほうれんそう 報告・連絡・相談 なんでも話せる風通しのよい職員室に
  - ・学級→学年→中核→総括→教務→教頭→校長
- 原則、この順番を守って相談をしていく。自分のところで止める意識をもつ。ただし、報告等は適宜行なっていき、一人で抱え込まないようにする。

## ④各部会⇔企画会⇔部会⇔職員会議

- ・企画会では、職員会議議題の確認、調整を検討する。
- ・適宜 学年代表者会も開催する。

## ⑤ヒヤリハットのうちに、危機回避の対策を(不祥事防止)

- 安全・健康・個人情報の管理・災害・防犯・保護者との円満な関係づくり(普段からのプラスの声かけが大切)・人権の尊重(いじめ防止・ハラスメントの防止)等々
- ・安全安心の教育現場を守るために、基本を大事にする。小事を大事にする。
  - ・ちょっとでも、心配、ヒヤリハットの時は、ほうれんそう報告・連絡・相談で、軽微なうちにチームで丁寧に対応し危機を乗り越える。初動を大切にす。

## ⑥なんでも、相談できる職員室の雰囲気

- ・「どうしたらいいですか」ではなく「～しようと思いますが、どうでしょうか?」という形を基本形にする。
- ・職員一人ひとりの良さが発揮できる学校に。

## ⑦働き方改革について

働き方改革は、何でも簡略化・合理化をすることではなく、保護者への説明責任も果たせなければいけない。業務軽減は、ただ負担を減らすのではなく、きちんとした理由のもと改善されるべきものであると考える。